

新潟県 看護協会だより

発行
公益社団法人 新潟県看護協会
新潟市中央区川岸町2丁目11番地
☎ 025-233-6550
FAX 025-266-1199
<http://www.niigata-kango.com/>
編集
広報委員会



第 122 号



- ・会長あいさつ 2
- ・新潟県看護協会看護学会 3～4
- ・職能トピックス 5～6
- ・平成 26 年度災害支援ナース養成研修 7
- ・平成 26 年度医療安全管理者養成研修 7
- ・訪問看護ステーション紹介 8
- ・新潟県ナースセンターだより 9～10
- ・ともしびの灯 11
- ・お知らせコーナー 12

会長あいさつ



会長
佐藤 たづ子

新年あけましておめでとうございます。

平成 27 年もよい年となりますよう役員一同頑張ってまいりますので、会員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

昨年は、改革の年だったと思います。社会保障制度改革が急速に進み、2025 年に向けて、看護職に関する改革も多く、アンテナを常に高く、早め早めの情報を得る努力が必要となっています。

当協会のホームページも参考にご覧いただきたいと思います。

昨年の 10 月の理事会において、新潟県看護協会平成 27 年度重点目標を以下の 4 点とすることで承認をいただきました。

1. 地域包括ケアシステムの推進に向けて、看護職の役割を発揮する
2. キャリア開発の支援と看護の質向上を図る
3. 働き続けられる職場環境づくりの推進に向けてワーク・ライフ・バランスの定着を図る
4. 支部の活動を推進する

2025 年問題に向け、新潟県においても地域包括システムの構築は喫緊の課題となり、各地で活発な動きが展開されています。このような中、療養を必要とする人はもとよりすべての人々が安心して生活できる社会に向け、看護職としての役割を果たしていきたいとの思いを込めました。また、看護専門職として、キャリアを積み看護の質向上にも積極的に取り組んでいただけるよう教育内容も充実させていきます。働き続けられる職場環境づくりも重点事業として取り組みます。

また、平成 27 年度からナースセンター事業において、第 5 次 NCCS の運用開始や、離職看護職の登録制度も始まり、看護師確保定着に向け、皆様の期待に応えられるよう改善が進みます。

今年も一年皆様からのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

公益社団法人新潟県看護協会

会 長 佐藤たづ子

平成 27 年度 新潟県看護協会 通常総会・職能別交流集会のご案内

期日：平成 27 年 6 月 17 日（水） 会場：新潟グランドホテル 悠久の間

【午前 通常総会／午後 職能別交流集会】

役員の変更があります。役員候補者及び推薦委員を推薦する場合は、定款細則 11 条より、通常総会 40 日前（5 月 8 日）までに会長に届出が必要です。

新潟県看護協会看護学会

開催日：平成 26 年 11 月 28 日（金）

会 場：朱鷺メッセ

参加者人数：448 名

（一般 315 名 学生 133 名）

メインテーマ

『看護の未来 - 新しい知の創造 -』

平成 26 年度 新潟県看護学会を終えて

学会委員長 川崎 久子

平成 26 年度の「新潟県看護協会看護学会」は晴天に恵まれ、多数の来場者のもと「看護の未来 - 新しい知の創造 -」をテーマに盛大に開催されました。一般演題は 34 題で臨床現場でのテーマを深く掘り下げた興味深い発表が行われました。

特別講演では、東北大学加齢医学研究所所長の川島隆太先生より『元気な脳が、私たちの未来をひらく』についてご講演をいただきました。先生から元気な脳は日ごろの生活からつくられていくことを詳細なデータでお示しいただき研究成果の活用は私たち自身なのだと気づかされた講演でした。

看護フォーラムでは、日本ノーリフト協会代表の保田淳子先生より『オーストラリアのノーリフトを活用して - 患者さんの拘縮とつながる腰痛予防対策 -』として、患者さんの QOL とともに看護師の QOL も低下させない看護について多くの示唆をいただきました。

また、今年は新しい試みとしてフットケアについての交流集會も共催し、より実践的な学会へと発展させることができました。

臨床現場は、多忙を極め緊張感と疲労の連続ですが、臨床家だから持ちうる実践知の宝庫です。日常の中のありふれた現象も丁寧に解析してみると貴重なエビデンスとなりえます。平成 27 年度も多くの研究成果のご応募とご参加をお待ちしております。

口演 15 題

看護管理	母性看護	4 題
老年看護		8 題
成人看護		3 題

示説 19 題

成人看護	6 題
老年看護	6 題
看護管理 小児看護	7 題



特別 講演

『元気な脳が、私たちの未来をひらく』

講師 川島 隆太 東北大学加齢医学研究所 所長
座長 青木 萩子 新潟大学医学部保健学科 教授

～講演内容は食事や睡眠、メディアが脳機能発達、脳機能低下に
大きな影響を与えてしまうといった興味深い内容でした～



感想

脳機能をあげるためには、朝食は主食だけでなく、おかずも一緒に摂ることが大切！と知りました。

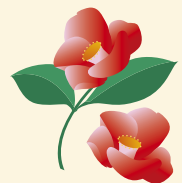
看護 フォーラム

『オーストラリアのノーリフトを活用して』

～患者さんの拘縮とつながる腰痛予防対策～

講師 保田 淳子 日本ノーリフト協会 代表
座長 古田美千子 新潟リハビリテーション病院 看護部長

～持ち上げない看護、抱えない介護を実践し分かりやすく、
日々のケアに使える内容の講演でした～



学生の声

実習ですぐに使える内容で、実際に椅子などを使用し体験することもでき、楽しく学べました。

職能トピックス

TOPICS

保健師情報交換会報告

保健師職能理事 太田昭子

平成 26 年 11 月 8 日（土）に保健師情報交換会を開催し、40 名の参加がありました。今回は、「地域診断と地区活動、住民主体の保健活動を見出そう」をテーマに、活動報告とグループワークを行いました。

南魚沼市保健課 北村浩美氏からは「地域診断で同じ方向が向ける保健活動の取り組み～みんなで一緒に PDCA サイクル～」と題し、工夫しながら地域診断を実践したことにより、各分野の健康課題の明確化と共有につながり、全体を見渡すことが可能となった活動の報告がありました。また、新潟市東区役所健康福祉課 五十嵐香奈子氏からは「ウォーキング教室から自主グループの立ち上げを通して～保健師活動の『みる、つなぐ、動かす』の視点から～」と題し、教室実施から自主グループを立ち上げた活動を学びました。

グループワークでは、北村氏の報告について「分散配置でも顔を合わせて話し合いができる連携の場を持とう」「皆が同じ方向で取り組むことで気持ちがつながっていく」「地区診断の成果は住民のものになるように徹底して使おう」などの意見が出ました。五十嵐氏の報告については、「自主グループの立ち上げの時にキーパーソンを探し、リーダー的な人を見つけよう」「自主グループ継続のためにも支援が大切」などと話し合いました。

改訂された「保健師活動指針」では、保健師の保健活動の基本的な方向性の一つとして「地域診断に基づく PDCA サイクルの実施」が盛り込まれています。今回の情報交換会で改めて活動指針に盛り込まれた基本的な方向性を再認識するとともに、引き続き効果的な活動をしていきたいと思える有意義な研修となりました。

また、情報交換会終了後、恒例？となりました男性保健師の会を開催しました。県内の行政男性保健師 13 名中 6 名が集まり、今回は初めての試みとして介護予防事業に男性の参加者を増やすための工夫について自由に話し合いました。短時間ではありましたが男性ならではの視点での発言もあり有意義な話し合いができたと感じました。徐々に人数も増えている男性保健師の会です。今後も職能委員会として関わっていきたく考えています。



助産師職能集会活動報告

助産師職能理事 高島葉子

平成 26 年 11 月 13 日（木）に「ペリネイタルロスとグリーフケア～語ることで癒し～」をテーマに助産師職能情報交換会を開催し、42 名の方にご参加いただきました。講演と情報交換への助言は昨年度に引き続き山梨大学大学院総合研究部教授中込さと子先生からいただきました。アンケート結果からも参加者の満足度は非常に高く、多くの学びを得ていました。講義では、ペリネイタルロスの幅広い概念を認識する機会となりました。また、グリーフケアは死産や死亡後の問題としてケアを考えがちですが、さまざまな検査や超音波画像診断などの出生前診断や医療の発展に伴い、妊娠期にすでにペリネイタルロスが予測され、妊娠期からケアが始まることを理解しました。助産師は妊産婦さんに寄り添い、傾聴し、本当に語りたことを語る権利があると問いかけ、共に話す時間をつくり、「あなたを大切に思っている」ということを伝えることが大切であると学びました。グループワークでは活発な議論がなされ、各施設での抱える悩みや取り組みを交流し合うことができました。情報交換の中で、ペリネイタルロスに向かっている母子に対して、外来（妊娠期）と病棟（分娩期）との継続性が十分な体制でないことが多々発表されました。そのことに対して、中込先生からは、体制が整っていることが重要なのではなく、助産師は、どんな赤ちゃんでも、生まれてくるかけがえのない赤ちゃんとして迎えることを助け、安全と安心を保証することが重要であると助言を受けました。参加者は改めて常日頃の助産業務をしっかりと真摯に実践していくことの大切さを心に刻みました。また、必要だと思う情報は自ら動き教えていただくことが重要であり、個人情報保護ばかりにとらわれ、あきらめていたことも振り返ることができました。

【会員の皆様へのお知らせ】

クリニカルラダーレベルⅢ認証申請（申請期間：平成 27 年 8 月 1 日～8 月 31 日）に向けてポートフォリオなどの準備は進んでおられるでしょうか。申請には、施設看護部管理者による内部承認を得ることが不可欠です。そこで、平成 26 年 11 月 17 日（月）に助産師職能委員長は長岡赤十字病院中川光子産婦人科病棟師長の協力を得て、病院施設の中で、助産師が勤務している病院の看護部管理者にラダー申請に係る内部承認について説明をしました。熱心に耳を傾けていただきました。



保健師

助産師

看護師職能Ⅰ 職能集会活動報告 看護師職能Ⅰ 理事 田中京子

新潟県看護研修センターにて平成26年11月29日(土)に看護師職能Ⅰ意見交換会が開催されました。参加者は中堅看護師や支部職能委員、看護管理者など約90名でした。

「高齢化社会を支える看護師の役割・病院で培った経験を地域看護に活かそう」をテーマに、訪問看護ステーションかめだ森下加緒里氏より「訪問看護の実際」についての講演と長野県小諸市 市川医院院長 市川卓郎氏より「在宅医療を支える～地域開業医師と病院看護師の役割」についての講演をいただきました。ねらいは開業医師と訪問看護師の実例を紹介してもらい、高齢者を地域で支えるための取り組みを学びました。

森下氏の講演内容は「在宅は生活の場であり、病気や障害を抱えながらその人らしく生きる事を支える」「病院看護師に求めることは患者が自宅に帰るために『何が必要か』を考え、退院後の生活をイメージできる社会資源について必要な情報を整理する」「在宅での医療処置は生活を優先し完全を求めない」「全ての準備が整わなければ帰れないと思わない」という内容でした。

市川医師の講演内容は「日本は世界1番の長寿国、現在は高齢化率25.1%となり、今後高齢化が確実に進む。当然死亡数も増加し、今後20年で40万人増えるとされている。高齢化医療を考えるにあたり、最も重要になってくるとされる在宅医療である。在宅医療に移行する患者や家族がどんな不安を持ち、何を期待するかなど重要な情報が患者にとって最も身近な看護師に向けて発信されている。この意図をくみ取り、患者を取り巻くスタッフ、家族も含めた他職種でカンファレンスを行い、在宅医療を理解してもらうことから始まる」という内容でした。

グループワークでは退院支援の連携や訪問看護の実態を聞いて感想などを話し合い、「看護師の役割」「入院早期からの関わりが重要であること」「老々介護などの困難事例もあるが他職種間の連携が大切になる事」「地域看護を知る事、学ぶことが必要だ」などの意見があがり、高齢化社会を支えていく看護師の役割と病院から在宅へと地域連携を強化することで患者がその人らしく、安心した療養生活を支援できることを学びました。



グループワークの様子



市川医師の講義

看護師職能Ⅱ 活動報告 看護師職能Ⅱ 理事 本間美知子

平成27年も新しい幕開けとなりました。会員の皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。日頃より会員の皆様には大変お世話になっております。

お蔭様で看護師職能Ⅱも今年で4年目を迎えることが出来ました。当初何をしたいのか分からず手探り状態の職能でしたが、少しずつ名前が知れ渡り何とか軌道に乗り職能団体としての役割を認識し研修会等の活動ができるようになって参りました。大変ありがとうございます。

さて、益々高齢者を取り巻く環境は日々変化し、高齢者は住み慣れた地域で自分らしく暮らし、そして最後の最期までその暮らしを支え続けるという地域包括ケアシステムの構築が現在推進されるようになって来ました。

4年目を迎えるにあたり、さらに個々の価値観の多様化に伴う高齢者が増加し「自分らしく過ごす事ができる」いわゆる『生活の質』を重要視する医療と介護の連携が重要となり、職能Ⅱも必然的に社会からは今までより以上の積極的行動を求められているところであります。

日本看護協会看護師職能Ⅱの活動目標にもあるように①看取りケアに関する研修プログラムの普及啓発②都道府県看護協会との連携との目標に準じて次年度も引き続き「看取りケア」「認知症」を中心に研修会を開催したいと考えております。

昨年来から進めて参りました研修会開催も多くの方の参加を得て「看取り研修会」「認知症研修会」を実施することが出来ました。12月6日に実施したグリーンサポートとしてのエンゼルケアセミナーでは、参加人数が多く、施設で1名の参加者を絞らせていただいた程、思いのほか多くの参加者があり委員一同驚きと共に、看護師一人ひとりの高齢者ケアに対する意識の高さと、行動の変容を徐々に感じているところです。

少しでも多くの参加者と、できるだけ皆さんのニーズにあった研修会を計画し各施設の看護の質が上がり、高齢者と共に暮らしを支えあうことの喜びが味わえるようこれからも努力を重ねていきたいと委員一同考えております。今後ともご協力の程宜しくお願い申し上げます。



平成26年度 災害支援ナース養成研修 実践編

平成26年11月6(木)～7日(金) 新潟県看護研修センター 参加者 49名

災害支援ナースの役割は、被災者が健康レベルを維持できるように適切な医療・看護を提供することだけでなく、被災した看護職の心身の負担を軽減し支えるよう努めるなど重要な立場にあります。そんな看護師の育成のための研修です。



平成26年度 医療安全管理者養成研修

集合研修
(2回目)

平成26年11月11日(火) 新潟県看護研修センター 参加者 75名

医療安全管理者研修は「業務指針および養成のための研修プログラム作成指針～医療安全管理者の質の向上のために～」に則った内容で行われました。この研修をもって組織的な医療安全管理体制を確立するための要件を修得し、安全文化の醸成および医療の質向上を図る人材となる医療安全管理者、もしくは今後、その任に当たる予定の者を養成していく重要な研修です。



杉山良子先生の医療安全全般のまとめや事故分析法に参加者が食い入るように取り組みました

訪問看護ステーション紹介

前回に引き続き、新潟県看護協会立の訪問看護ステーション2施設を紹介します。

訪問看護ステーションさんわ 所長 渡邊一枝

平成10年にスタッフ3人で開設しました。現在は13名の看護職員（内2名は介護支援専門員兼務）と1名の事務職員で業務を行っています。長く勤務している職員も多いのですが、若い職員も増えています。現在2名が産休中です。

当ステーションの特徴は、とにかく『守備範囲が広いこと』です。一言で長岡市と言っても寺泊から山古志までと広範囲です。加えて出雲崎町、柏崎市や小千谷市の一部地域の訪問もお受けしています。1日で運転する距離が100kmを超える事も珍しくありません。特に冬の運転は大変です。雪かきと自動車の雪下ろしから始まります。それでも『待っていてくれる方がいる』と思うと頑張れるのです。

訪問看護のやりがいは生活に合わせた援助ができること。『一つできることが増えた』と言っては、利用者さんや家族と一緒に喜んで、『困っていることがある』と言っては一緒に考え、悲しい時には一緒に泣いて…そんな毎日です。

訪問看護をするにあたっての一番の心配事は医師と離れたところでサービス提供する事ではないでしょうか。そのために、観察力や判断力が求められます。『具合が悪ければ、いつでも受診してください』とは言いますが、動けない方が受診をすることは簡単ではありません。不要な受診をしなくて良いように訪問看護は日々、予防の視点から援助をしているのです。興味のある方は、どうぞ一度ステーションを見学してみませんか。



所在地 新潟県長岡市三和3丁目4番16号 電話 0258-30-5565 FAX 0258-30-5563

訪問看護ステーションみつけ 所長 清水民枝

平成11年5月に開所し16年目で、現在看護師8名（介護支援専門員兼務2名）、事務員1名の中規模ステーションです。訪問看護、居宅介護支援事業を行い、2校の看護学生を受け入れています。エリアは見附市、長岡市、三条市で、市街地より中山間部が多く自然環境はとても良いところです。

利用者様は、月85名前後で小児から高齢者の方々です。要介護度5・4・3の中・重度者は全国平均51.6%（平成26年2月）より高く、73%（平成26年11月）です。

昨年の在宅看取りは11名（ターミナルケア加算・ターミナル療養費算定）ですが、他に入院・入所となったターミナル期の方も多いです。また訪問看護を開始し数日から1～2週間で永眠される場合もあるため、病院・診療所の医師・看護師・医療相談員、介護支援専門員、各サービス事業者等と密に連携を図っています。

利用者様のご希望は、健康状態の管理、緊急時の相談・訪問が多く、なかでもターミナル期の方、高齢者世帯や日中高齢者のみとなる場合は、不安があり、電話相談や、緊急時訪問で対応しています。

利用者・ご家族様の「家で最期を迎えたい」「最期は病院だが、それまでは家で過ごしたい」「介護施設で最期を迎えたい」という各々の思いに添いながら訪問看護を行っております。また利用者・ご家族様からは「待っていたよ」「訪問看護は減らさないで！」と言って頂き、私達の仕事のやりがいに繋がっています。

当ステーションは利用者、家族、多機関の皆様の期待にそえるよう、平成26、27年度は県の訪問看護ステーション強化事業に参加し、安定した経営・運営ができることや外・内部研修等で更なる訪問看護の質の向上に努めております。

今後も地域で多職種の方々や連携し、利用者、ご家族様が安心して療養生活を送れるよう努めていきますので、よろしくお願いたします。



毎日の
カンファレンスの様子

端座位練習中!!
「座りたい!」



(利用者様の了解を得ています)

所在地 新潟県見附市学校町1丁目5番42号 電話 0258-62-7058 FAX 0258-62-7166

新潟県ナースセンターだより

平成26年度再就職支援講習会報告

今年度は、未就業者を対象に、総合コース（4日間）3会場と19の実習施設、選択コース（2日間）15会場で行いました。参加者は65名で熱心な方が多く、複数回出席されたこともあり、延べ参加者数は114名になりました。その結果、H26.12月末現在の就職者数は33名で就職率は50.7%でした。

<受講生の状況>

保有免許	(人)	年齢	(人)
保健師	3	21～30	5
助産師	0	31～40	22
看護師	47	41～50	18
准看護師	15	51歳以上	20



<受講生の皆さんの感想>

- ★長いブランクがあるため、参加することに不安や緊張があったが、講義はわかりやすく、参加した皆さんの話を聞くことで、再就職に向けて前向きに考えられるようになった。参加して良かった。
- ★講義を受けて、再び学ぶことの楽しさを感じる事が出来た。10年のブランクがあるので、最新の現場での技術治療方法を学ぶことが出来た。何でも質問しやすい環境で助かったし、参加者の人たちとの情報交換も出来、復職への不安な思いを聞いてもらうことで、心強いと感じた。



<講習会終了後の懇話会>

すべての講習会が終了した11月26日に受講生の皆さんと懇話会を行いました。受講生の参加は6名でした。今回初めて保育コーナーを設けました。2名のお子さんが利用され、保育士1名とナースセンター職員が対応しました。

南部郷病院の吉澤看護部長から「看護職が生き生きと働くことへの支援について」というテーマで話して頂き、長岡西病院の野村理恵さんと西新潟病院の関谷恭子さんに復職体験を語ってもらいました。現場からの具体的な話を基に有意義な意見交換ができ、復帰への意欲を新たにされました。



<研修及び実習病院等>

新潟県看護研修センター 新潟大学医歯学総合病院 新潟中央病院 黒埼病院
 特別養護老人ホームはまゆう 新潟西蒲メディカルセンター病院 岩室リハビリテーション病院
 西新潟中央病院 県立新発田病院 新潟県立看護大学 糸魚川総合病院 県立中央病院 知命堂病院
 けいなん総合病院 上越医療センター病院 わたぼうし病児保育室 長岡看護福祉専門学校
 長岡中央総合病院 長岡保養園 県立小出病院 県立六日町病院 東部どんぐり保育園 高田西城病院総合
 リハビリテーション・みどり病院 白根大通病院 長岡西病院 木戸病院 新潟脳外科病院 県立十日町病院
 南部郷総合病院 新潟手の外科研究所病院 さいがた医療センター 佐渡総合病院 燕労災病院 白根健生病院
 田宮病院 桑名病院
 (実施順)

ご協力頂いた病院、福祉施設、学校および講師等を引き受けていただいた皆様ありがとうございました

ナースセンター(バンク)の機能が強化されます

- ・昨年11月からナースバンクにてハローワーク求人が検索でき紹介も可能になりました
- ・4月からe-ナースセンターのシステムが変わります
- ・人材確保法改定により10月からナースセンターへの届け出制度がスタートします
- ・再就職支援事業がさらに拡大され、病院等における講習会は新たな展開となる予定です
- ・県内にナースセンターのサテライト設置が検討されています

< e-ナースセンターシステム更新 4月より > ~使いやすく便利になります~

ポイント

- ・求職者はほぼすべての機能がスマートフォンで利用可能に
- ・求職登録なしでも体験版で利用可能に
- ・求職者の希望にあった就業先を自動的にマッチング
- ・地図検索により希望地近くの施設が探せる
- ・直接応募が出来、求人・求職ともスピーディな対応が可能に
- ・求人、求職登録が簡略化

☆求職者と求人施設のトップ画面(イメージ)



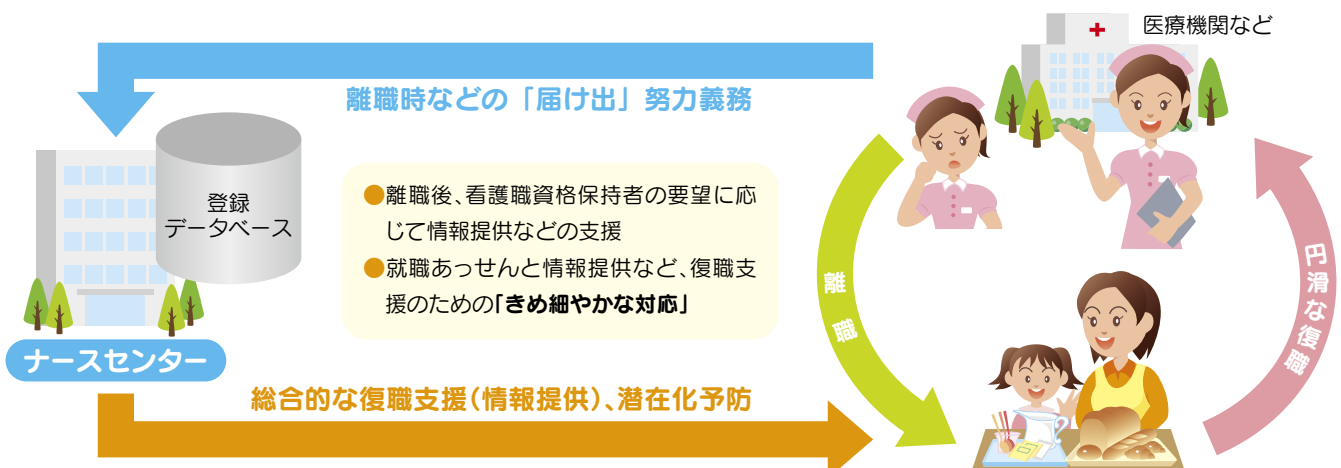
< 看護師等の離職時の届け出 10月開始 >

(改正人材確保法の関連条文から抜粋)

- ・「病院等を離職した場合その他の厚生労働省令で定める場合」の看護師等は「住所、氏名その他」都道府県ナースセンターに届け出るよう努めなければならない。
- ・病院等の開設者等その他厚生労働省令で定める者は、第二項の規定による届け出が適切に行われるよう、必要な支援を行うものとする。

登録はスマートフォンやパソコンのナースセンターサイトを通じ情報をナースセンターに送信できる仕組みが整備されます。ナースセンターに来所して登録することももちろんできます。さらには病院等からの一括届け出も検討されています。

届け出の努力義務化により一人ひとりに合わせた復職支援を行うことがねらいで、ナースセンターにおいてはそのための機能を強化することになります。



ともしびの灯

誓い述べ気持ち新たに

看護師を目指す専門学校の1年生が初めて、夢への決意を新たにする「ともしびの灯」が11月28日新潟市の新潟看護専門学校で行われた。生徒たちはキャンドルを手に、目標とする看護師像を発表した。

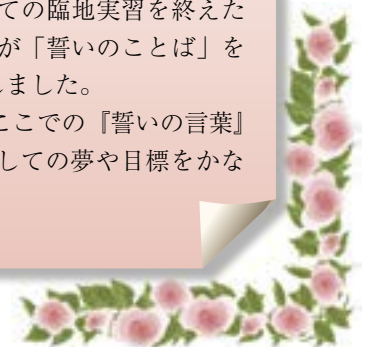


キャンドルサービス『ともしびの灯』によせて


新潟看護医療専門学校 副校長 鈴木光江

平成26年11月28日（金）新潟市西区看護医療専門学校では『1年生43名のキャンドルサービスともしびの灯』を挙げていただきました。当校では戴帽式にかわる行事として、初めての臨地実習を終えたこの時期に行っております。ナイチンゲール像から灯火を受け取った一人ひとりが「誓いのことば」を述べ、全員で「ナイチンゲール誓詞」を暗証し、看護師になる決意を新たにいたしました。

今後看護学生として学ぶ中で、乗り越えなければならない課題に直面したとき、ここでの『誓いの言葉』に励まされ前に進む勇気を与えてくれることを、そして手にした灯火が看護師としての夢や目標をかなえる道筋を照らし続けてくれることを願っております。



お知らせコーナー



平成27年度 新潟県看護協会看護学会

学会テーマ

「地域を支える看護の力」

日時 平成27年11月27日(金)

場所 朱鷺メッセ

募集期間

平成27年3月16日(月)～5月15日(金)15:00

詳細は、新潟県看護協会のホームページをご覧ください。

<http://www.niigata-kango.com/>

経験を
自信にする
チャンス!



事務局より

看護研修センターを御利用の皆様へ

- ・看護研修センターには駐車スペースがありません。なお、**県立がんセンター新潟病院の駐車場の利用は堅く禁止**します。必ず公共の交通機関をご利用ください。
- ・お忘れ物は3ヵ月保管後、処分させていただきます。ご了承下さい。

編集後記

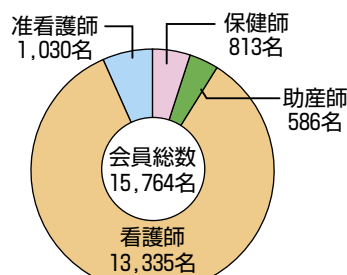
今年度も最終号を迎えましたが、今年度の協会紙の感想はいかがでしたか？

春の足音が待ち遠しいように、来年号もぜひお楽しみにしてください。

広報担当：落合、蕪木、斎藤、茂田井
koho@niigata-kango.com

新潟県看護協会会員数

平成27年2月3日現在



会員総数 15,764名

保健師	813名
助産師	586名
看護師	13,335名
准看護師	1,030名